秩父千年ミュージアム　感動発見の時。

千年の夢を見た。いま遥かなる時の中へ。

神話の時代、知々夫彦命（ちちぶひこのみこと）が造った知々夫国から秩父の歴史は始まった。いにしえの知々夫国遺産を後世に伝えたい…時空を超えた千年ミュージアムの旅へ。

秩父アートを探そう 1

天狗に間違えられた開祖さま
大陽寺・鬚僧（ひげそう）大師

大陽寺は、鎌倉時代末期に後嵯峨天皇の第三皇子仏国国師によって開山されました。国師は京の都で生をうけられ、16歳の時仏門に入り、遥か東国に修行を求め鎌倉建長寺へ。さらに悟りの道を求めてこの地にたどり着きました。断崖絶壁で、とても人が寄りつかない険しい山中で黙々と座禅をする国師の姿は、山賊や猟師たちには天狗に映ったといわれ、江戸時代に山岳信仰が盛んになるまで天狗が住む渓谷と恐れられていました。修行中に長々とのびた鬚と鋭い眼光から鬚僧大師と呼ばれ、開山堂にはその風貌を物語るお面が残されています。

伝説の千手観音像

実は、観音像は三体存在しており、ここ大陽寺のほかに、長野・善光寺と東京・浅草寺に安置されています。なぜ、三体あるのかとの謎を紐解くと、佐渡からわたってきたという伝説に辿りつきます。この観音像は、秩父から善光寺へ修行に出かけた僧が佐渡にわたり、修行後に持ち帰ったもので、三体のうち一体をお世話になった善光寺に、あとの一体を荒川で結ばれて縁深かった浅草寺におくったのではないかという言い伝えがあります。

●秩父鉄道「三峰口」駅からバス～徒歩120分

この親指ほどの千手観音像はガンジス河の砂金でつくられたとの由来があります。

■当山で最も古い仏像のひとつ降三世明王像。

ここにも伝説の龍がいた。

■龍の彫刻
秩父神社"つなぎの龍"を彫った左甚五郎の龍の彫り物がここにも…。昔、三峰山を支配していた邪悪な龍が、開祖さまの法話よって仏になったという言い伝えがあり、その伝説を聞いた左甚五郎がこの龍を彫ったと伝えられています。

■昔、大陽寺のある大日向山に住んでいたといわれる、天狗たちが集まり宴会を開いている様子が描かれた額。

■閻魔大王
大陽寺の閻魔大王は、江戸時代から地獄の主ではでなく、天上界の閻魔さまと呼ばれていました。それは、生前の罪を裁くのではなく、参拝者が地獄に落ちないように、心に棲む鬼を取り除いてくれたからだといわれています。